

著者：大岩孝司 出版社：晩聲社
もしもあなたががんになったら

著者：大岩孝司 出版社：晩聲社

【目次】

- ◎第1章 住み慣れた家で暮らす
- ◎第2章 それぞれの物語
- ◎第3章 せん妄ということ
- ◎第4章 治療の初期段階からのせん妄
- ◎第5章 病院というところ
- ◎第6章 がん治療の受け方
- ◎第7章 認知症だからこそ住み慣れた家
- ◎第8章 意識はなくなるのか
- ◎第9章 息苦しいのも大丈夫
- ◎第10章 “七転八倒の痛み”の意味

この十年間、末期がん患者の在宅緩和ケアに携わった医師が語る、がん終末期をいかに住み慣れた家で安心して自分らしく過ごすか

がんと診断される時の状況は子育ての最中だったり、会社で大きな役割を任されていたり、もう隠居して長くなるので何もやり残したことはなかったり、など人によってさまざまです。進行度もさまざまで、早期がんで、ほぼ治る人もいれば、あまりに進行していて治る可能性がない人もいます。

しかし、あらゆるがん患者さんに共通していることがあります。がんと診断された瞬間、今まで生きてきた人生とは別の人生が始まるということです。時間の長短はあっても、ここからの人生をいかに充実したものにするかが、それぞれの人生の価値を決めると言っても過言ではないでしょう。人生の総決算であり、最後の舞台です。